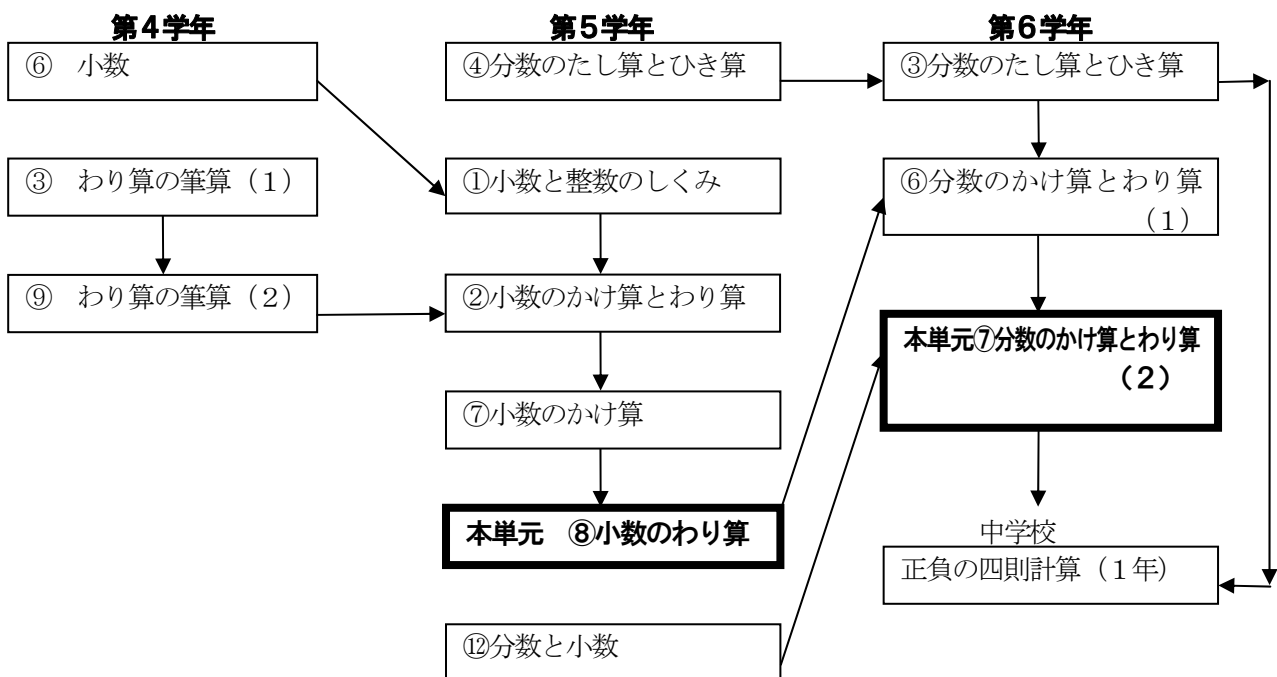


第 5, 6 学年複式算数科指導案

日 時 平成20年11月12日 (水) 5校時
 児 童 第5学年 男1名 女2名
 第6学年 男4名 女1名 計8名
 指導者 五安城 宏彦

| 第 5 学年 | 第 6 学年 |
|--|---|
| <p>1 単元名 ○ 小数のわり算を考えよう (東京書籍 上P87~P98)</p> | <p>1 単元名 ○ 分数のかけ算とわり算を考えよう (2) (東京書籍 上P71~P83)</p> |
| <p>2 単元の目標 ○ 除数が小数の場合の除法の意味とその計算のしかたについて理解し、それをを用いる能力を高める。また、計算法則は数範囲が小数の場合でも成り立つことを理解する。</p> <p>【関心・意欲・態度】 ・除数が小数の場合でも、既習の整数の場合の数量関係などをもとにして、除法の式に表そうとする。</p> <p>【数学的な考え方】 ・整数の除法計算と関連付けて、除数が小数の除法計算のしかたを考える。</p> <p>【表現・処理】 ・除数が小数の除法計算をすることができる。</p> <p>【知識・理解】 ・除数が小数の除法の意味やその計算のしかたを理解する。</p> | <p>2 単元の目標 ○ 除数が分数である場合の除法計算の意味とその計算のしかたについて理解し、それをを用いる能力を高める。</p> <p>【関心・意欲・態度】 ・分数÷分数の計算のしかたを、分数の性質や既習の計算と関連付けて考えようとする。</p> <p>【数学的な考え方】 ・分数の性質や既習の計算をもとにして、分数÷分数の計算のしかたを考える。</p> <p>【表現・処理】 ・分数÷分数の計算ができる。</p> <p>【知識・理解】 ・分数÷分数の意味やその計算のしかたを理解する。</p> |

3 教材の関連と発展



| | |
|--|--|
| <p>4 単元について</p> <p>本単元は、学習指導要領の第5学年の目標(1)「小数及び分数の意味やあらわし方についての理解を深める。また、小数の乗法及び除法の意味について理解し、それらの計算のしかたを考え、適切に用いることができるようにするとともに、分数の加法及び減法の意味について理解し、それらの計算の仕方を考え、用いることができるようにする。」及び A 数と計算(3)「小数の乗法及び除法の意味について理解し、それらを適切に用いることができるようにする。イ 乗数や除数が整数の場合の計算の考え方を基にして、乗数や除数が小数である場合の乗法及び除法の意味について理解すること。ウ 小数の乗法及び除法の計算の仕方を考え、それらの計算ができること。また、余りの大きさについて理解すること」に基づいて設定されたものである。</p> <p>これまでに、小数については、第4学年の第6単元「小数」で1/10の位の範囲で加減計算について学習し、第5学年第1単元「小数と整数のしくみ」で小数の意味を1/1000の位まで拡張し、小数が整数と同じ十進数であることを学習してきた。小数の乗法については、第2単元で小数×整数の意味と計算について、前単元で小数×小数の意味と計算方法を学習してきた。</p> <p>本単元では、小数÷小数の意味とその計算方法を扱い、除法の意味を広げていく。</p> | <p>4 単元について</p> <p>本単元は、学習指導要領の第6学年の目標(1)「分数の加法及び減法についての理解を深め、適切に用いることができるようにするとともに、分数の乗法及び除法の意味について理解し、それらの計算の仕方を考え、適切に用いることができるようにする。」及び A数と計算(3)「分数の乗法及び除法の意味について理解し、それらを適切に用いることができるようにする。ア 乗数や除数が整数である場合の乗法及び除法について理解すること。イ 乗数や除数が整数や小数の場合の計算の考え方を基にして、乗数や除数が分数である場合の乗法及び除法の意味について理解すること。ウ 分数の乗法及び除法の計算の仕方を考え、それらの計算ができること。」に基づいて設定されたものである。</p> <p>これまでに、分数については、第4学年で分数の表し方と意味・性質を学習し、第5学年で同分母分数とわり算の結果を分数で表せることについて学習してきた。第6学年では、第3単元で異分母分数の加減計算について、前単元で分数×整数、分数÷整数、分数×分数の計算を学習してきた。</p> <p>本単元では、除法の計算のきまり、時間と分数、分数倍と乗除法を学習し、小学校で取り上げる計算は全て終了する。中学校では、さらに負の数、無理数まで広げ、文字を使った計算を学習する。その素地となるように、小数、分数の乗除混合計算を発展教材で取り上げていく。</p> |
| <p>5 児童の実態</p> <p>本学級は、5, 6年生の複式で、5学年の児童は、3名である。しっかりと話を聞き、聞いたことをすぐに自分の学習に生かそうとする子どもたちで、自分の力を伸ばそうと努力する。</p> <p>本単元に関わるレディネステストの結果を見ると、既習事項の「整数のわり算」「小数÷整数」「小数を用いる単位量あたりの計算」では無答や誤答の子どもはほとんどなく、既習事項が定着していることがわかる。</p> <p>未習部分の「小数のわり算」については、正答の子どもがいないが、途中の計算式を工夫しながら、なんとか正答を導き出そうと努力している形跡が見られる。しかし、商を立てる位が未習のため、商が「2. 5」なのに対し「0. 0025」など妥当な数字からかけ離れている。</p> <p>これらの実態から、本単元の学習では、学習意欲を持ち、確実に学習を進める子どもたちであるというよさを生かし、直接指導における「自力解決」では、教師とともに自分たちの考えを交流し、集団で共有し、一般化を図ることで、確実な定着を目指していく。また、小数の除法を定着していくために、その後の間接指導では、「まとめの段階」を黒板やプリントを見ながら、学習を振り返り、自分でまとめる活動を行い。練習問題は、自分で答えあわせをしながら、できるだけ多くの問題に挑戦さ</p> | <p>5 児童の実態</p> <p>本学級は、5, 6年生の複式で、6学年の児童は5名である。昨年度も複式の授業を経験しており、自力解決でも、主体的に学ぶ子どもが多い。</p> <p>本単元に関わるレディネステストの結果を見ると、既習事項の「分数のかけ算」「分数÷整数」「分数を用いる単位量あたりの計算」で無答や誤答の子どもはおらず、定着しているものと判断できる。</p> <p>未習部分の「分数のわり算」については、正答の子どもがいないが、途中の計算式を工夫しながら、なんとか妥当な答えを求めようと努力している形跡が見られる。また、分数時間を整数時間に変換する問題では、「何分の何時間」を「いくつに分けたいくつ分」と分数の基本概念から考え、正答している子どもが2名いる。</p> <p>これらの実態から、本単元の学習では、学習意欲を持ち、自分なりの考えを持てる子どもたちであると考え、間接指導における「自力解決」を課題に対する自分なりの考え(予想を確立する段階)を確立する段階ととらえ、時間を保障し、じっくりと取り組ませる。さらに、直接指導での「集団解決」を課題に対する解法を確立する段階と意識させ、自分なりの考えが、集団解決に生かされているという安心感と学習に対する成就感を味合わせ、いきながら、子どもを鍛え、学習を進めていく。</p> |

せていく。これらの取り組みを通し、商を立てる位の定着など基礎・基本の定着を目指していく。

6 指導観

本単元は5, 6年とも同領域、同内容の学習である。数の種類は異なるが、両学年とも既習の計算をもとに小数、分数の除法についての理解を深めることが学習の中心になる。本単元は両学年共通の展開をすることにより除法の意味について考え、その計算のしかたについて理解し、それを用いる能力を高めることができると期待する。

研究仮説に関わっては、「少人数・異学年集団」という複式学級の特性によって生じるデメリットをできるだけ無くし、逆にそのよさを最大限に生かした授業の展開が図られるよう、以下の点に留意して指導にあたりたい。

- ① 単位時間の授業展開を共通導入・共通終末を基本とする。お互いの学習内容を紹介し合ったり、比べ合ったりする活動を取り入れながら、学習の成果を相互に生かしあえるようにし、共に学ぶ一体感を大事にする。
- ② 直接指導では、できるだけ全ての子どもに発言などの具体的な活動の場を与えていく。発問や活動内容を吟味し、効率的な時間の活用を図っていく。
- ③ 間接指導時に使用する「プリント活用」の工夫を行う。子どもたちが自主的に学習を展開できるような構成にする。
- ④ プリントや授業中での観察を通し、子ども一人ひとりの学習状況を具体的に把握し、補充指導や個別指導に生かしていく。

7 指導と評価の計画

5年生（全13時間）

6年生（全13時間）

| 5年生（全13時間） | | | 6年生（全13時間） | | |
|---|---|--|---|--|--|
| 単元（配当時間） 目標 | 学習活動 | 評価規準 | 単元（配当時間） 目標 | 学習活動 | 評価規準 |
| 1 小数のわり算 (9) | | | 1 分数のわり算 (6) | | |
| ①小数でわることの意味、整数÷小数 (2) ・小数でわることの意味と、整数÷小数 (1/10の位まで) の計算のしかたを理解する。 | ◎200÷2.5の計算のしかたを考える。 ◎200÷2.5の計算のしかたをまとめる。 | 既習の整数÷整数、小数÷整数などに関連付けて、整数÷小数 (1/10の位まで) の計算のしかたを考えている。 【考】 小数でわることの意味を理解している。 【知】 | ①分数でわることの意味、真分数÷真分数 (2) ・分数でわることの意味を既習の計算をもとに考えることができる。 ・真分数÷真分数の計算のしかたを理解し、その計算ができる。 | ◎3/4dlのペンキで2/5㎡の板を塗るとき、このペンキ1dlで塗れる面積を求める式を考える。 ◎2/5÷3/4の計算のしかたを考える。 ◎真分数÷真分数の計算のしかたをまとめる。 | 図や計算の決まりを用いて既習の分数×整数、分数÷整数の計算をもとにして、真分数÷真分数の計算のしかたを考えている。 【考】 真分数÷真分数の計算ができる。 【表】 |
| ②小数÷小数、0を補うわり算 (2) ・1/10の位までの小数どうしの除法の筆算のしかたを理解し、その計算ができる。 ・1/10の位までの小数どうしの除法の計算 (商が純小数や被除数に0を補う場合) ができる。 | ◎7.8÷6.5の計算のしかたを考える。 ◎小数÷小数の筆算のしかたをまとめる。 | 1/10の位までの小数どうしの除法の筆算ができる。 【表】 除法の性質を用いて既習の計算に帰着させ、1/10の位までの小数どうしの除法の筆算のしかたを考えている。 【考】 | ②整数÷分数、約分 (1) ・計算の途中で約分できるときは約分すると簡単なことを理解する。 ・整数÷分数の計算のしかたを理解し、その計算ができる。 | ◎9/10÷3/4の工夫した計算のしかたを考える。 ◎5÷2/3の計算のしかたを考える。 | 計算の途中で約分すると簡単に処理できることを理解している。 【知】 整数÷分数の計算ができる。 【表】 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|--|---|
| ③被除数÷純小数=商 (<被除数) (1) ・純小数でわると、商は被除数より大きくなることを理解する。 | ◎240÷1.2と240÷0.8の計算をして、商と被除数の大きさを比べる。 ◎純小数でわると商が被除数よりおおきくなることをまとめる。 | 純小数でわると、しょうが被除数より大きくなることを理解している。 【知】 数直線上で除数の大きさと関連付けて、被除数と商の大小関係を考えている。 【考】 | ③3口の分数の乗除混合計算 (2) ・3口の分数の乗除混合計算のしかたを理解し、その計算ができる。 | ◎3/4÷6/5 ×1/5 の計算のしかたを考える。 | 3口の分数の乗除混合計算ができる。 【表】 |
| ④あまりの位取り (1) ・小数の除法におけるあまりの位取りについて理解する。 | ◎2.5ℓのジュースを0.7ℓ入りの水筒に入れると何個できて、ジュースはどれだけあまるかを考える。 ◎あまりの小数点を打つ位置についてまとめる。 | あまりのある場合の小数の除法計算ができる。 【表】 あまりの小数点の位置を被除数と関連させて考えている。 【考】 | ④分数の乗除の立式 (1) ・分数の乗除の立式について理解を深める。 | ◎「7/4mの重さが2/5kgのホースがあります」という文章をもとにして立式する。 | 問題場面における数量の関係を、数直線図を用いて立式することができる。 【表】 |
| ⑤概数で処理する。 (1) ・小数の除法の答えを概数で表すときの処理のしかたを理解する。 | ◎1.4ℓの砂の重さが2.6kgのときの1ℓの砂の重さを、2けたの概数で求める。 | 小数の除法の答えを、必要に応じて概数であらわすことができる。 【表】 | 2 時間と分数 (2) | | |
| ⑥学習内容の定着 (1) ・学習内容を確実に身につける。 | ◎{力をつけよう}に取り組む。 ◎練習問題を解く。 | 学習内容を正しく用いて、問題を解決することができる。 【表】 | ①時間の分数表示 (1) ・時間の分数表示について理解する。 | ◎3/4時間は何分かを考える。 ◎40分は何時間かを考える。 | 時間を分数表示して、問題解決に用いることができる。 【表】 |
| 2 小数の倍とわり算 (3) | | | 3 分数の倍とかけ算・わり算 (3) | | |
| ①比較量÷基準量=割合が成立する。 (1) ・比較量、基準量が小数のときも、何倍かは除法で求められることを理解する。 | ◎3.6m、1.8mは、2.4mの何倍かを求める方法を考える。 ◎比較量、基準量が小数のときの何倍かの求め方をまとめる。 | 比較量、基準量が小数の場合でも、何倍かを除法でも求めることができる。 【表】 | ①比較量÷基準量=割合が成立する。 (1) ・比較量、基準量が分数のときも、何倍かは除法で求められることを理解する。 | ◎5/4m、3/8mは1/2mの何倍かの求め方を考える。 ◎比較量、基準量が分数のときの何倍かの求め方をまとめる。 | 比較量、基準量が分数のときも、図などを用いることによって整数倍に帰着して考えている。 【考】 |
| ②基準量×割合=比較量が成立することを振り返る (1) ・倍を表す数が小数のときも、比較量は基準量×何倍で求められることを想起し、練習する。 | ◎小数のかけ算で学習したことを想起しながら、練習問題を解く。 | 小数倍の意味を想起し、問題を解決することを理解している。 【知】 | ②基準量×割合=比較量が成立する。 (1) ・倍を表す数が分数のときも、比較量は基準量×何倍で求められることを理解する。 | ◎600円の6/5倍、3/5倍の代金の求め方を考える。 ◎基準量の分数倍にあたる大きさの求め方をまとめる。 | 倍を表す数が分数の場合も、乗法を用いてよいことを理解している。 【知】 |

| | | |
|--|-----------------------------------|---|
| ③比較量÷割合=基準量が成立する。(1) ・倍を表す数が小数のときも、基準量は比較量÷何倍で求められることを理解する。(本時) | ◎630円が基準量の1.8倍にあたる時の、基準量の求め方を考える。 | 倍を表す数が小数の場合も、□を用いるなどして基準量を求めることができる。 【表】 |
|--|-----------------------------------|---|

| | | |
|--|-----------------------------------|---|
| ③比較量÷割合=基準量(1) ・倍を表す数が分数の場合も、基準量は比較量÷割合で求められることを理解する。(本時) | ◎900円が基準量の5/3倍にあたる時の、基準量の求め方を考える。 | 倍を表す数が分数の場合も、□を用いるなどして基準量を求めることができる。 【表】 |
|--|-----------------------------------|---|

| | | |
|-------------------------------|--------------------------------|----------------------------|
| 3 まとめ (2) | | |
| ①学習内容の確認(3) ・学習内容の理解を確認する。 | ◎「たしかめよう」に取り組む。 ◎練習問題に取り組む。 | 基本的な学習内容について理解している。 【知】 |

| | | |
|-------------------------------|--------------------------------|----------------------------|
| 4 まとめ (2) | | |
| ①学習内容の確認(2) ・学習内容の理解を確認する。 | ◎「たしかめよう」に取り組む。 ◎練習問題に取り組む。 | 基本的な学習内容について理解している。 【知】 |

8 本時の指導

(1) 目標

- ・倍を表す数が小数のときも、基準量は比較量÷何倍で求められることを理解する。

(2) 具体の評価規準

| 評価規準 | 具体の評価規準 | |
|---|---------|--|
| 倍を表す数が小数の場合も、□を用いるなどして基準量を求めることができる。 【表】 | A | 数直線図などをもとにして、倍を表す数が小数でも基準量を除法の式から求められることを理解し、発表することができる。 |
| | B | 数直線図に適した数を入れることを通して、基準量を除法で求められることがわかる。 |
| | 支援の手立て | 数直線図に比較量、基準量、何倍かにあたる数を位置づけ、基準量がどのくらいの大きさになるかを予想させながら、整数の場合を想起させて考えさせる。 |

8 本時の指導

(1) 目標

- ・倍を表す数が分数の場合も、基準量は比較量÷割合で求められることを理解する。

(2) 具体の評価規準

| 評価規準 | 具体の評価規準 | |
|---|---------|---|
| 倍を表す数が分数の場合も、□を用いるなどして基準量を求めることができる。 【表】 | A | 数直線図などをもとにして、倍を表す数が分数でも基準量を除法の式から求められることを理解し、発表することができる。 |
| | B | 数直線図などを用いて、整数倍と関わり合わせ、比較量、何倍にあたる数から基準量を考えさせている。 |
| | 支援の手立て | 友達の発表をもとにして、「似ているところ」と「違うところ」を考えさせ、数直線図をもとに何倍ぐらいになるかを考えさせる。 |

(3) 指導にあたって

共通導入として、両学年の本時の問題を提示し、比較しながら問題の相似点を考える。この活動を通して、お互いの学習内容を知り、前時までの系統と本時の両学年にわたる原理をつかませる。また、こうした活動を通し学級としての一体感をもって学習活動に入れるようにしていく。

また、展開部分においては、5学年を「直接→間接指導」という流れにし、「直接指導」では、「教師と友達とともに」学び、交流・共有・一般化までを図っていく。その後、「間接指導」においては、本時の学習を振り返りながら、学習内容を再確認し、学習課題に対するまとめを自力で行う。さらに、練習問題に自主的に取り組むことで、本時の学びをもとにしながら、自力解決していく力を身につけさせていきたい。

一方、6年生は「間接→直接指導」という流れにし、「間接指導」では、小学校の算数科で学んできた既習事項を駆使しながら、自力解決することを目指したい。間接指導の段階で子どもたちが考える解法は学習課題解決のための「予想」の段階であり、その後の「直接指導」の段階で教師と共に友達の考えの類似点・相違点を交流しながら「学びの交流」を図っていきたい。

共通終末の段階では、学習感想や本時のまとめを両学年で交流することにより、学習内容の振り返りを行う。このことにより、5年生は来年度への系統性を考え、6年生は前学年の復習を行える。また、学習交流をすることにより、学級としての一体感をねらう。

(4) 本時の展開

| 第 5 学 年 | | | | 第 6 学 年 | | | |
|---------|--|---|---------|----------|--|---|--------|
| 齎 | 教師の支援と評価 (◇) | 学習活動と内容 | 段階・形態 | 学習活動と内容 | 教師の支援と評価 (◇) | 齎 | |
| 学習プリント | <ul style="list-style-type: none"> 他の学年の問題と比較し、同じところと違うところを確かめ、各学年の問題をつかむ。 問題文の意味を図でとらえ、学習の見通しを持つ。 比較量と何倍かにあたる数から基準量を求めるもとめかたについて学習することをおさえる。 | <p>1 問題をとらえる</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> れなさんの家には、生後10日の犬がいます。今の体重は630gで、生まれたときの1.8倍です。 生まれたときの犬の体重は何gでしたか。 </div> <p>(1) 数直線図に数を位置づけ、およその答えを予想する。</p> <p>2 課題を把握する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 倍を表す数が小数のとき、もとにする大きさをもとめよう。 </div> | つかむ 10分 | つかむ 10分 | <p>1 問題をとらえる</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ひろしさんは、900円の本を買いました。この本の値段は、雑誌の値段の5/4倍です。 雑誌の値段は何円ですか。 </div> <p>(1) 前時までの解決方法を振り返る。</p> <p>2 課題を把握する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 倍を表す数が分数のとき、もとにする大きさをもとめよう。 </div> | <ul style="list-style-type: none"> 他の学年の問題と比較し、各学年の問題をつかむ。 既習事項の確認をし、学習の見通しを持つ。 比較量と何倍かにあたる数から基準量を求めるもとめかたについて学習することをおさえる。 | 学習プリント |
| 数直線図 | <ul style="list-style-type: none"> わり算でできることは予想できると考える。その場合は、そのわけを考えさせる。 わり算の考えが出ない場合は、□を基準量に置き換え、わり算を導くようにする。 単に答えを求めるだけでなく、式と数直線図の関係を確かめる。 | <p>3 学び合う</p> <p>(1) 数直線から考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 数の関係をとらえ、既習事項から、わり算で求められることを考え、交流する。 <p>(2) 答えを求める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 計算し、答えを予想の答えと比較し、妥当性を確かめる。 | みつける 5分 | みつける 13分 | <p>3 自力解決をする</p> <p>(1) 既習の考え方を使い、自分なりの方法で解いていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○数直線図を使って考える。 ○整数倍と同様に式から考える。 ○分数を小数にしてから、考える。 | <ul style="list-style-type: none"> 自力解決の支援として、学習プリントを用いる。 どの方法で考えた場合でも、理由を考えさせることで、自分の考えを振り返らせる。 時間よりも早く終わった子どもは、他の方法で考えさせる。 | 発表用紙 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 言葉でまとめることで、次の練習に応用できるようにする。 | <p>4 まとめる</p> <p>(1) 本時の学習を振り返りながらプリントをまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 倍を表す数が小数のときももとにする大きさは、□を使ってかけ算の式に表すと考えやすくなります。 </div> | まとめる 5分 | たしかめる 5分 | <p>4 学び合う</p> <ul style="list-style-type: none"> 単に式だけにとどまることの無いように、式の意味について、数直線図や整数倍と比較して、分数倍の意味についてつかませたい。 話し合いの中で、友だちの考えのよさがわかったり、友だちとの相違点を考えさせたりしていく。 <p>◇【表】 発言と観察及び学習プリント</p> | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> 適用問題を解くこと | <p>5 練習問題を解く。</p> | ひま | 5 まとめる | <ul style="list-style-type: none"> 言葉でまとめることで | | |

| | | | | | |
|--|--|--------------------------------|--------------------------------|--|--|
| | により、習熟を図る。 ・答え合わせをしながら、プリントに沿って進める。 | ろ げ る | と め る 5 分 | 倍を表す数が小数のときも もとにする大きさは、□を使ってかけ算の式に表すと考えやすくなります。 | 次の練習に応用できるようにする。 |
| ◇【表】 学習プリント | | 12 分 | ひ ろ げ る 7 分 | 6 練習問題を解く ・答え合わせをしながら、プリントに沿って進める。 | ・適用問題を解くことにより、習熟を図る。 |
| ・わかったこと、他の学年との関連などについて感想をまとめる。 ・6年生に小数倍について分かったことを話し、学習交流を図る。 | 6 振り返る。 (1) 本時の学習感想を発表する。 (2) 学習のまとめを話し合う。 | ひ ろ げ る 5 分 | ひ ろ げ る 5 分 | 7 振り返る。 (1) 本時の学習感想を発表する。 (2) 学習のまとめを話し合う。 | ・わかったこと、他の学年との関連などについて感想をまとめる。 ・5年生に分数倍について分かったことを話し、学習交流を図る。 |

(5) 板書計画

| 第5学年 | | 第6学年 | |
|---|--|---|--|
| 1 今日の問題 | 2 今日の課題 | 1 今日の問題 | 2 今日の課題 |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>れなさんの家には、生後10日の犬がいます。今の体重は630gで、生まれたときの1.8倍です。 生まれたときの犬の体重は何gでしたか。</p> </div> | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>倍を表す数が小数のとき、もとにする大きさをもとめよう。</p> </div> | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ひろしさんは、900円の本を買いました。この本の値段は、雑誌の値段の5/4倍です。 雑誌の値段は何円ですか。</p> </div> | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>倍を表す数が分数のとき、もとにする大きさをもとめよう。</p> </div> |
| 3 数直線図 | | 3 数直線図 | |
| | | | |
| | | ○ 子ども達の自力解決 | |
| | | <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; width: 80px; height: 40px; margin: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 80px; height: 40px; margin: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 80px; height: 40px; margin: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 80px; height: 40px; margin: 5px;"></div> </div> <div style="border: 1px solid black; width: 80px; height: 40px; margin: 5px; margin-top: 10px;"></div> | |
| 4 まとめ | | 4 まとめ | |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>倍を表す数が小数のときももとにする大きさは、□を使ってかけ算の式に表すと考えやすくなります。</p> </div> | | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>倍を表す数が小数のときももとにする大きさは、□を使ってかけ算の式に表すと考えやすくなります。</p> </div> | |

(6) 座席表

第5学年

第6学年

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|--|--|--|--|-----------|--|--|--|--|-----------|--|--|--|--|-----------|--|--|--|--|-----------|--|--|--|--|---|--|--|--|--|---|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| ① | | | | | ① | | | | | ① | | | | | ① | | | | | ① | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ② | | | | | ③ | | | | | ② | | | | | ③ | | | | | ② | | | | | ③ | | | | | | | | | | | | | | |
| ④ | | | | | | | | | | ④ | | | | | | | | | | ④ | | | | | | | | | | ④ | | | | | | | | | |
| ⑤ 関 考 表 知 | | | | | ⑤ 関 考 表 知 | | | | | ⑤ 関 考 表 知 | | | | | ⑤ 関 考 表 知 | | | | | ⑤ 関 考 表 知 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | 1 | | | | | 1 | | | | | 1 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | 2 | | | | | 2 | | | | | 2 | | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | 3 | | | | | 3 | | | | | 3 | | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ① | | | | | ① | | | | | ① | | | | | ① | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ② | | | | | ③ | | | | | ② | | | | | ③ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ④ | | | | | | | | | | ④ | | | | | | | | | | ④ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑤ 関 考 表 知 | | | | | ⑤ 関 考 表 知 | | | | | ⑤ 関 考 表 知 | | | | | ⑤ 関 考 表 知 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | 1 | | | | | 1 | | | | | 1 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | 2 | | | | | 2 | | | | | 2 | | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | 3 | | | | | 3 | | | | | 3 | | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

- ① 氏名 ※指導案では、アルファベットで表示する。
- ② 既習内容の定着
 ◎全問正解 ○一部不正解（不正解2割未満） △未定着（不正解2割以上）
 ※（ ）内は主な未定着事項
- ③ 未習内容の定着
 ◎全問正解 ○一部正解（正解2割以上） △未定着（正解2割未満）
- ④ 実態についての特記事項と個別の指導観
- ⑤ 授業記録
 ※本指導案では、小単元ごとの記録として使用
 ※網掛けは、評価を行う観点

(表の①～④の内容は省略)